







Band Score 6035 The Hollies, The Searchers, The Dave Clark Five British

Peter & Gordon, The Animals, Small Faces, The Who



Bus Stop / Love Potion No.9 / Because / Glad All Over / A World Without Love The House Of The Rising Sun / Itchycoo Park / Sha La La Lee / Substitute / My Generation I Love You / Summer Holiday / You Really Got Me / Hippy Hippy Shake

60年代ブリティッシュ・ビート・ベスト

Shinko Music Pub.co.,LTD.

60's British Beat Best

contents

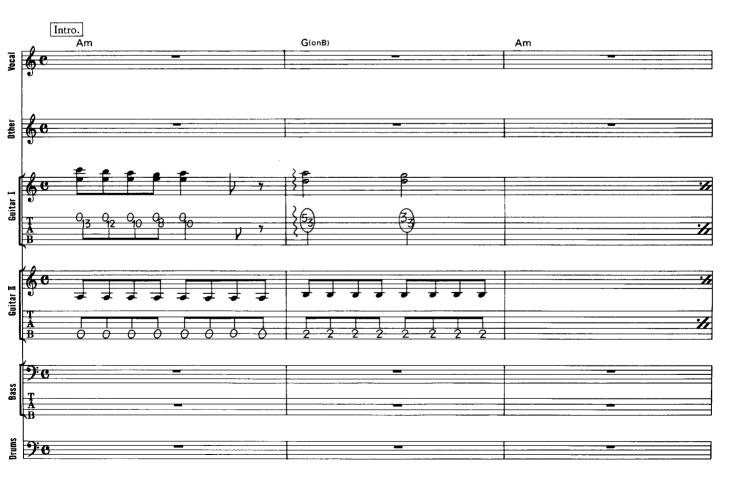
- 003 Bus Stop/The Hollies
- 012 **Love Potion No.9 / The Searchers** 恋の特効薬 (ラヴ・ボーションNo.9) / サーチャーズ
- 019 **Because / The Dave Clark Five** בּז-ג/דֹּלוֹיס: סָק-סָ-סָרָזָדָלוֹי
- 026 **Glad All Over / The Dave Clark Five** $\vec{\sigma} \neq \vec{\tau} + \vec{\tau} + \vec{\tau} \neq \vec{\tau} \neq$
- 034 **A World Without Love / Peter & Gordon** 愛なき世界/ピーター&ゴードン
- 044 The House Of The Rising Sun / The Animals $\mathfrak{g}_{HOOStcog}/\mathcal{P}_{=\mathcal{P},\mathcal{X}}$
- 056 **Itchycoo Park / Small Faces**
- 064 Sha La La La Lee / Small Faces $\flat \star \cdot \overline{2} \cdot \overline{2} \cdot \overline{2} \cdot \overline{2} \cdot \overline{2} - \mu \cdot 2 \pi \epsilon_{z}$
- 074 **Substitute / The Who** 恋のピンチ・ヒッター/ザ・フー
- 086 **My Generation / The Who** マイ・ジェネレーション/ザ・フー
- 097 **I Love You / The Zombies** ^{好きさ} 好きさ 好きさ / ゾンビーズ</sup>
- 106 **Summer Holiday / Cliff Richard**
- 120 **Hippy Hippy Shake / The Swinging Blue Jeans**

It shall be unlawful to publish, sell, or distribute this copy outside of Japan.

BUS STOP

バス・ストップ Words & Music by Graham Gouldman

ホリーズを世界的に有名にした大ヒット・ナンバーだ。イントロのギ ター1は1弦の開放弦を効果的に使ったフレージング。全てダウン・ピ ッキングでメロディ・ラインを作っている2弦の音が1弦の開放の音よ りも明確に聴こえるようにプレイしよう。ただし、2小節目は1弦の開放 弦は使わず、メロディ・ラインも1弦の方に移っているので要注意。 以降の歌中のバッキングはロー・ポジションによる基本的な8ビート・ カッティングで、ダウン&アップ・ピッキングで行う。アクセントも同 様のピッキングで行った方が自然だろう。2カッコ内とフェイド・アウ トしていくエンディングの部分で聴かれる2本のギターの絡みフレーズ は、ギター1がハイ・ポジション、2がロー・ポジションでプレイする。 ギター1の場合、左手の運指をより簡単にするために、人差し指で12fの 1、2、3弦をセーハで押さえたままにしておいて、13fの音は中指、14fは 薬指、15fは小指と決めてプレイすればやりやすいだろう。この際、人差 し指以外の指を使う時につられて人差し指が指板から浮いてしまわない ように要注意。また、指はあまり高く上げずに最小限の動きに留めるよ う心掛けよう。



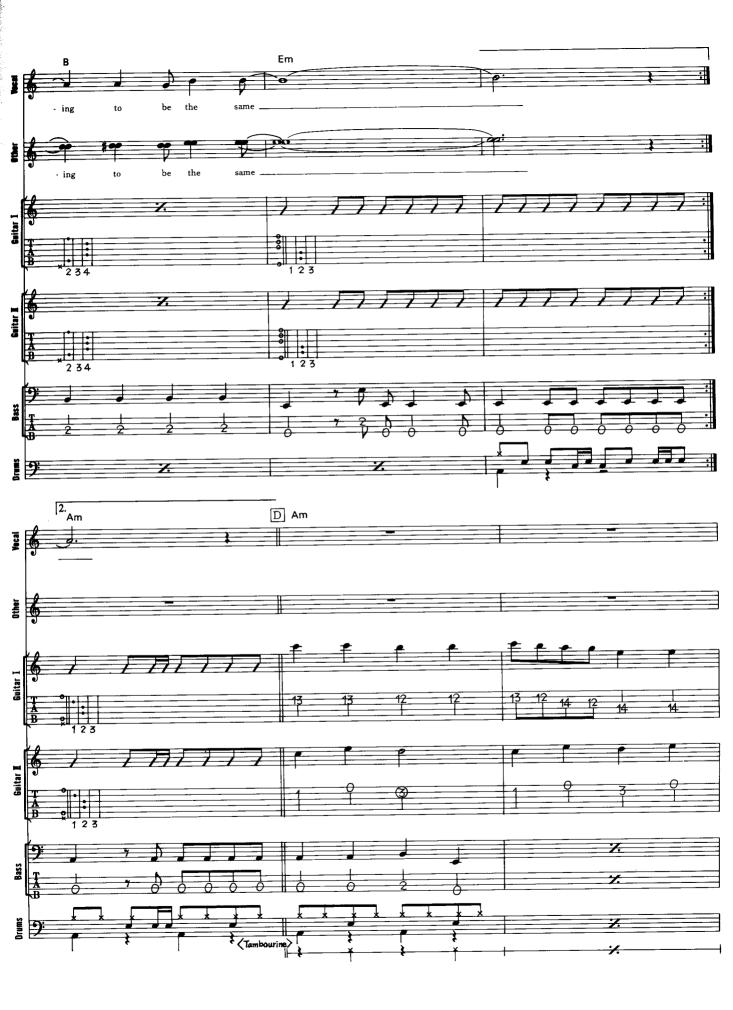
















LOVE POTION NO.9

恋の特効薬(ラヴ・ボーションNo.9) Words & Music by Jerry Leiber and Mike Stoller

数多くのアーティストがカバーした、サーチャーズ最大のヒット曲だ。 60年代のポップスらしい、ミディアム・テンポの8ビート・ナンバーだ。 ギター2本にベース、ドラムというシンプルなバンド編成でこの曲は演 奏されている。△の部分などギターはほとんどユニゾンでバッキングを 行っているが、所々違ったリズムを弾いている部分もあるので気を付け てもらいたい。このギターのサウンドはエレクトリック・ギターをアン プに直接プラグインしただけの、非常にナチュラルなモノになっている。 リヴァーブが掛けられたサウンドではあるが、これは昔のギター・アン プの多くに用いられていた、スプリング・リヴァーブを使ったモノだろ う。現在ならばもちろんデジタル・エフェクターなどを使って同じ効果

を簡単に出す事の出来るモノだ。 △の5小節目からベースやドラムは8 ビートのリズム・パターンを演奏し始めている。ドラムのハイハットは しっかりと閉じて、スネアなどはあまり力を入れ過ぎないように、軽め に叩くようにしよう。 回はギター・ソロがプレイされている。ここで弾 かれているフレーズは2音を使ったモノになっているので、音がバラつ かないように、しっかりとピッキングするようにしたい。かなり強めに ピッキングしているようだ。コーダ部分のエンディング近くではリタル ダンドでテンポが遅くなっている。最近の曲ではあまり聞かれないパタ ーンだが、ここは各パートのタイミングを合わせるようにして演奏して もらいたい。



© 1959 (Renewed) JERRY LEIBER MUSIC and MIKE STOLLER MUSIC All Rights Reserved











k.



BECAUSE

Words & Music by Dave Clark

日本のファンから熱狂的な支持を得ているデイヴ・クラーク・ファイ ヴのヒット曲。イントロで弾かれているオルガンのメロディが印象的な 曲だ。このオルガンはいわゆる電気オルガンまたはコンボ・オルガン等 と呼ばれていたようなモノであるが、もちろん現在のデジタル・シンセ などのプリセット・サウンドでもよくあるモノで代用して大丈夫だ。イ ントロや匠の間奏の部分は短音でメロディを弾いているが、その他の部 分はコードを白玉で鳴らしてバッキングを行っている。この曲ではギタ ーは2本弾かれている。どちらのギターもエフェクターなどを使わない クリアでナチュラルなサウンドでのプレイとなっている。譜面を見ても らえば分かるように、上段のギター1はアルペジオ風に白玉で長くのば し、下段のギター2は短く切ってコード・カッティングを行っている。ド ラムのリズムはシンプルな8ビートだ。少しユッタリとした、ミディア ム・テンポであり演奏上の困難はないだろう。4拍目のスネアだが、時々 2つ入れられているので注意して叩いてもらいたい。このドラムは全体 的に力を入れ過ぎずに軽く叩くようにするのがポイントだ。ベースもシ ンプルな演奏だ。ほとんど同型のリズム・パターンであり、弾かれてい る音はコードのルート音と5度の音がほとんどだ。このように、この曲 はどのパートも非常にシンプルなパターンで演奏されており、誰でも簡 単にコピーすることの出来るような曲になっている。その分、ヴォーカ ルのメロディには気を使って、きれいなコーラスを付けるように演奏す るようにしよう。



© Copyright 1964 by IVY MUSIC LTD. . Rights for Japan controlled by K.K. Music Sales c/o Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only













GLAD ALL OVER

グラッド・オール・オーヴァー Words & Music by Dave Clark and Mike Smith

デイヴ・クラーク・ファイヴの全英No.1ヒット・ナンバーだ。ドラム の8ビートのリズムからこの曲はスタートしている。この曲はブラス・ セクションとしてテナー・サックスが入れられている。これはほとんど の部分でベースとユニゾンでこの曲のメイン・リフをプレイしているモ ノだ。ギターはクリアでナチュラルなサウンドを使いコード・カッティ ングを行っている。このサウンドはもちろんエフェクターなど一切使わ れていない。弾かれているコードは1~3弦の高音弦を主に使い、軽め のピッキングで弾かれているようだ。ドラムのパターンは1拍ごとにス ネアを打っている非常にシンプルな8ビート・パターンだ。リズムがハ シったり、モタついたりしないように安定したビートをキープするよう に心掛けてもらいたい。国の部分のギターはミュート奏法が行われてい

る。これはピックを持つ右手の腹の部分をブリッジ近くの弦に当てなが らピッキングしているモノだ。ここでは細かい16分音符が弾かれている ので、ピッキングはダウンとアップを交互に繰り返す、オルタネイト・ ピッキングを行うと良いだろう。ここもあまり力を入れ過ぎずに、リズミ カルなプレイを行いたい。 ©の最後の部分では2拍3連のリズムのキメ がある。ここは各パートのタイミングをしっかりと合わせるようにしよ う。曲の後半回の部分から転調しているので要注意だ。GのキーからA^b のキーへと半音アップしているのだ。ギターやベースは単純にフレット を一つ移動させれば良いのだが、ポジションを変えて弾くような部分で は音を間違えないようにしよう。



© Copyright 1963 by IVY MUSIC LTD. Rights for Japan controlled by K.K. Music Sales c/o Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only















A WORLD WITHOUT LOVE

愛なき世界

Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

ビートルズのジョンとポールが書いた事でも有名なピーター&ゴード ンの定番ソング。ミディアム・テンポの8ビート・ナンバーだ。ヴォー カル部分のバッキングはスティール弦を張ったアコースティック・ギタ ー、いわゆるフォーク・ギターによるコード・ストロークがメインとな っており、全体的に静かな演奏となっている。イントロ部分などではエ レクトリックの12弦ギターが単音のメロディを弾いている。この12弦ギ ターのサウンドはクリアでナチュラルなモノだ。ベースもノーマルなエ レクトリック・ベースであり、シンプルな8ビートのパターンを演奏し ている。ドラムはやはり普通の8ビート・パターンだ。ハイハットでは なくシンバルを8分音符で刻んでおり、静かでしっとりとしたドラミン グを行っている。やはり、あまり力を入れ過ぎずに叩いた方が良いだろ う。 〇の部分のアコースティック・ギターだが、これはコードを押さえ

たままで8分音符でストロークしているモノであり、カッティングのように音を切らないように演奏しよう。ストロークはダウンとアップを繰り返し、1小節で4往復の腕の動きを行うと良いだろう。回の部分からオルガンがコードをプレイしている。この部分はシンプルに白玉でコードを鳴らしているだけであり、右手だけの演奏でO.K.だ。また、ここはギターもイントロで弾かれていたモノと同じ12弦ギターが使われており単音でフィル・イン・フレーズを入れている。 [」は間奏の部分となっている。ここはオルガンが単音でメロディを弾いており、それと同時に12弦のエレクトリック・ギターがソロ・フレーズをプレイしている。ここではプリング・オフのテクニックも多用されており、さらに [この6小節目ではクォーター・チョーキングも行われている。これはほんのわずか弦をチョーキングさせて音程を少しだけ変化させているモノだ。



© Copyright 1964 by NORTHERN SONGS All rights controlled and administered by SONY/ATV MUSIC USED BY PERMISSION INTERNATIONAL COPYRIGHT SECURED ALL RIGHTS RESERVED All print rights controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., for Japan















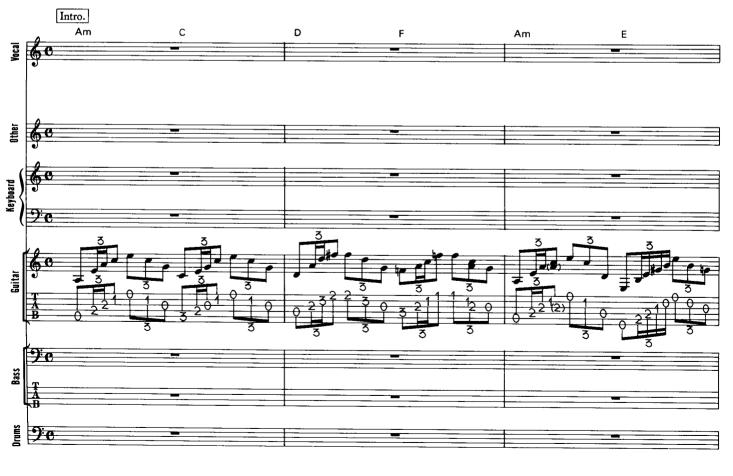




THE HOUSE OF THE RISING SUN

朝日のあたる家 Arrangement by Alan Price

アニマルズの最大のヒット曲であり、スタンダード化したナンバーだ。 この曲の最大のポイントは何と言ってもギターのアルペジオだろう。左 手のポジションは基本的なロー・コード、右手のピッキングは全てダウ ンで行う。低音から高音へのピッキングは弦の上を滑らすようにするが、 あまり無頓着にやってしまうとリズムが流れてしまうので、その点は注 意しよう。また、記譜してある音はコードの変わり目の音がコード・ト ーンでない箇所が多くあるが、これは左手のポジション移動の間に開放 弦が鳴ってしまっているためで、まぁ言ってしまえばミス・トーンのようなモノ。もし出来るのであれば、コード・トーンを上手に鳴らしてから素早く左手のポジション移動をしてもらいたいところだ。なお、譜面は4/4拍子で3連符の表記をしてあるが、3連符ではない8分音符を基本として12/8拍子で表記する場合も多い。どちらの場合も表しているリズムのニュアンスは同じ事だ。



© Copyright 1964 by KEITH PROWSE MUSIC PUBLISHING CO., LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only

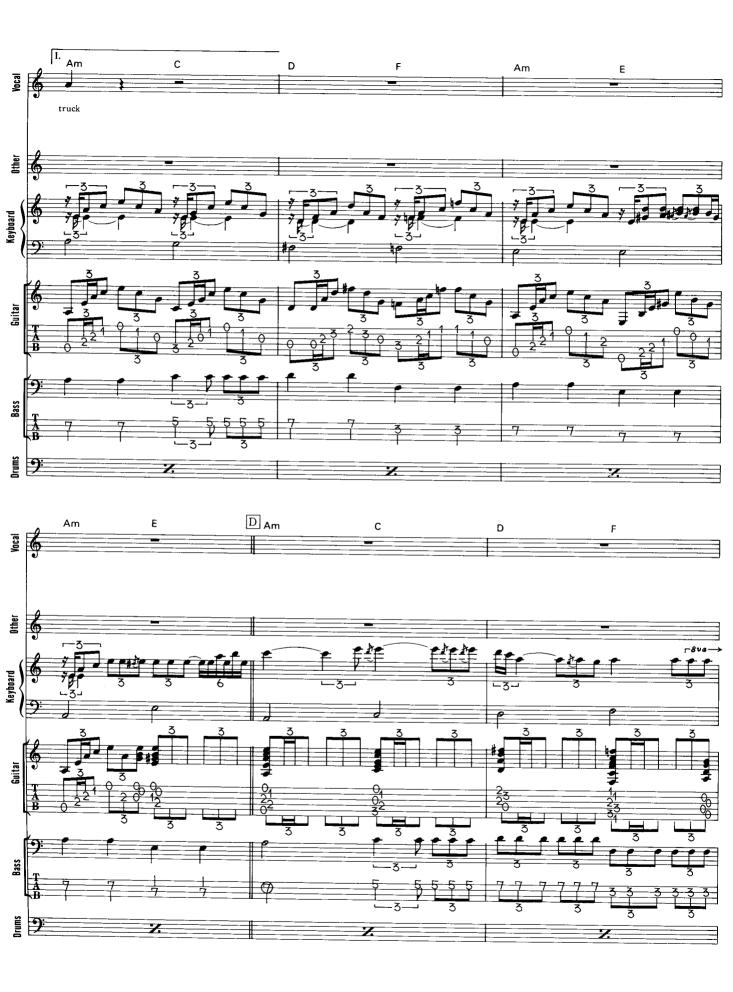






















ITCHYCOO PARK

Words & Music by Steve Marriott and Ronnie Lane

スモール・フェイセスの人気を決定づけたヒット・ナンバー。ノリの 良いアコースティック・ギターのコード・リフからこの曲はスタートし ている。このアコースティック・ギターはスティール弦を張ったフォー ク・ギター・タイプのモノが使われているようだ。イントロの初めの2 小節は低音部を単音で弾いており、ピッキングやフィンガリングが少し 複雑なので気を付けてもらいたい。ここは切れの良い演奏でリズムのノ リを出したいところだ。この曲の8分音符は譜面に指示されているよう に3連のノリになっているので気を付けよう。各パートがこのノリを合 わせるようにしてプレイする事がポイントとなりそうだ。ベースやドラ ムのフィル・インに続いて、イントロの3小節目からギター以外の楽器 がスタートしている。この曲のベースはちょっと面白いサウンドになっ

ている。使われているのは普通のエレクトリック・ベースのようだが音 がかなり歪んだモノになっているのだ。ファズのようなエフェクターが 使われている可能性もあるだろう。キーボードはピアノの他オルガンも 弾かれている。譜面の上段はピアノとオルガンのユニゾンによるプレイ だ。回の部分のギターは単音でプレイされている。ここはアルペジオ奏 法のように音を残しながらのプレイだ。回の3小節目や7小節目にはオ ルガンとユニゾンで2拍3連のフレーズも出てきているので、しっかり と合わせるようにしてもらいたい。回の最後の部分のドラムにはエフェ クターによる特殊効果が施されている。これは「ジェット効果」などと呼 ばれていたモノだが、今で言うフランジャーを使ったモノだ。もちろん ミキシング時に行われたサウンド処理だ。



© 1967 by EMI/UNITED PARTNERSHIP LTD. All rights reserved. Used by permission. Printing rights for Japan controlled by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K. c/o NICHION, INC















SHA LA LA LA LEE

Words & Music by Kenny Lynch and Mort Shuman

ライヴでは定番ナンバーとして活躍した活きの良いヒット・チューン であり、60年代にしては少しハードなロック・ナンバーだ。エレクトリ ック・ギターの音なども少し歪んだモノになっているが、これはエフェ クターなどを使わずにアンプによる自然なディストーションによるモノ だ。このギターはかなり強めにピッキングしており、荒っぽいが勢いの ある演奏を聴かせている。ドラムのリズム・パターンは基本的には8ビ ートのモノなのだが、スネアなどを16分音符で細かく入れている部分が 多いので気を付けてもらいたい。4分音符や8分音符といった基本的な 音符のリズムを正確に叩く事がポイントだ。また、この曲ではなるべく 力強くパワフルに叩くようにしよう。なお、譜面では省略されているが、 パーカッションとしてシェーカーとカウベルも、この曲では使われてい る。シェーカーは16分音符で細かく刻まれているのだが、重要なパート

ではないので省略しても演奏にそれほど支障はないはずだ。カウベルは ©の部分に4分音符で入れられている。これはヴォーカリストが担当し ても良いだろう。その他の楽器としてはキーボードとしてピアノとオル ガンが使われている。ピアノはイントロでフィル・イン・フレーズを弾 いている他、©ではコードを使ったリフも弾いている。このパートも力 強く、元気の良い演奏を心掛けてもらいたい。Dの後半部分のキーボー ドはピアノとオルガンのユニゾン・プレイだ。この部分、ギターはソロ・ フレーズを弾いている。ここでのギターはチョーキングのテクニックを 使ったモノだ。シンプルだがブルージーな雰囲気の演奏だ。チョーキン グは完全に1音上げるのではなく、少し微妙な音程にした方が雰囲気が 出るだろう。



© by CARLIN MUSIC CORP. All rights reserved. Used by permission. Rights for Japan controlled by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K. c/o NICHION, INC.

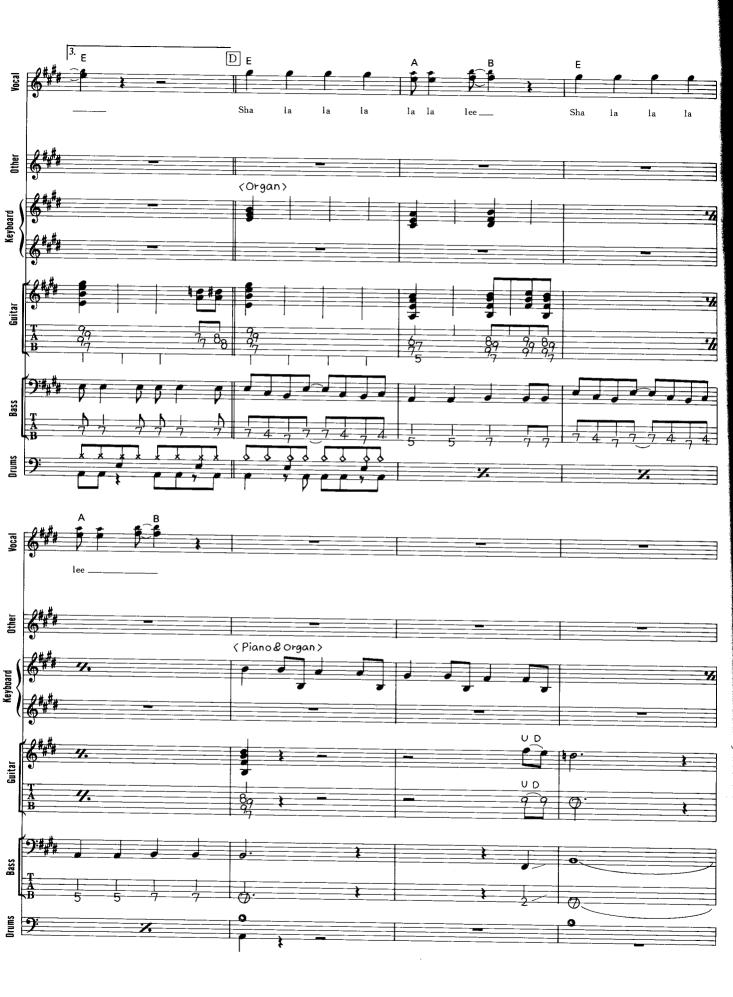


















SUBSTITUTE

恋のピンチ・ヒッター Words & Music by Peter Townshend

セックス・ピストルズなど多くのアーティストがカヴァーした、ザ・ フーの名曲だ。R&B調のハギレの良いリズム・パターンとキャッチー なメロディ・ラインを持ったナンバーだ。ヴォーカルはリード・ヴォー カルとコーラス・パートとのハーモニーをキレイに聴かせる事が最大の ポイントと言えるだろう。互いに音程や声のバランスに注意して歌いこ なして欲しい。イントロのアコースティック・ギターによる印象的なフ レーズは2本のギターを組み合わせたプレイだ。ギター2はロー・コー ドでのカッティングで、ギター1のパートに書いてあるのはメロディッ クな流れを強調したフレージングになっている。ちょっと12弦ギターの ようなニュアンスを持ったプレイだ。3小節目の3拍目からはエレクト リック・ギターとベースがユニゾンのバッキング・パターンを弾いてい る。ギターはアンプで軽くオーヴァードライヴさせているようだが、力 強いピッキングで"ジャリッ"とした感じの音になるように工夫してプレ イしよう。さらにご、回もギターとベースはユニゾンのフレーズが続く ので、リズムに気を付けてタイミングを合わせるように心掛けて欲しい。 軍のギター1はイントロのアコースティック・ギターと同様のフレーズ だが、あまり正確なピッキングにとらわれずにワイルドな感じを出すよ うに気を付けたい。特にリピートしてからは段々と崩していく感じのラ フなプレイで良いだろう。ギター2の方はオーソドックスなコード・カ ッティング中心のプレイだ。イントロと匡でのリズム・セクションが休 みになる部分ではシンコペーションに注意してテンポが狂ったりしない ように落ち着いてプレイする事。ベースはダウン・ピッキング中心に音 の粒を揃えて弾くように心掛けよう。シンコペーションでは音をつなぐ モノと休符の入るモノとの区別をハッキリさせてメリハリをつけたいも のだ。

























MY GENERATION

Words & Music by Peter Townshend

'67年に大ヒットしたザ・フーを代表するナンバー。ザ・フーはいわゆ るモッズの代表的なバンドと表されるが、ステージでギターやドラムを 叩き壊すという荒技の元祖的なグループなのだ。今CDを聴いてもそれ程 過激なサウンドのようには思えないかもしれないが、『ライヴ・アット・ ザ・リーズ』を聴いて頂ければ多少理解できるだろう。この曲でも後半部 分にそうしたワイルドさの片鱗を見い出せるかもしれない。前半はあく

までもヴォーカルとコーラスが主役で、 Dのベースとギターの掛け合い が一つのヤマ場だろう。その後転調を重ねていくのでその点に注意しよ う。 ①からはドラムスの3連の連打がラストまで続き、ギターはほとん どSE的なモノと考えて思い切り遊んでみても良いだろう。ドラムスも-種のフリー・ロールと思って良く、3連系ならば自由にタムやスネアを 使って叩いてO.K.だ。



© Copyright 1965 by FABULOUS MUSIC LTD., London, England Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only





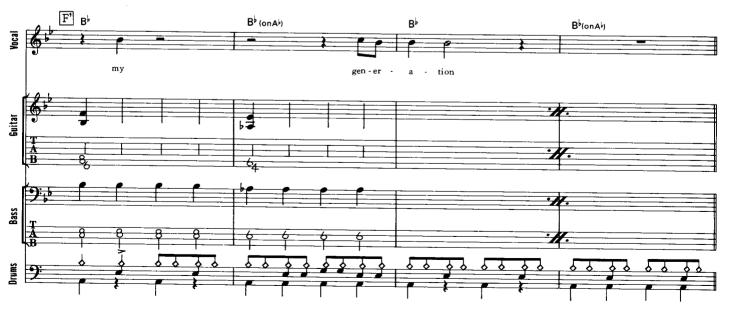






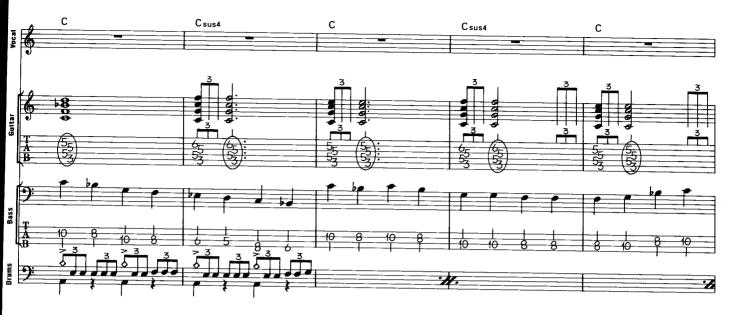


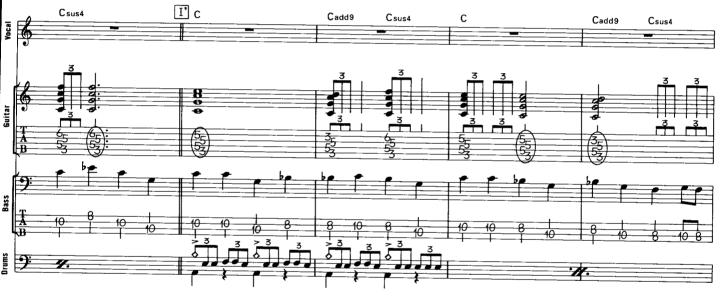


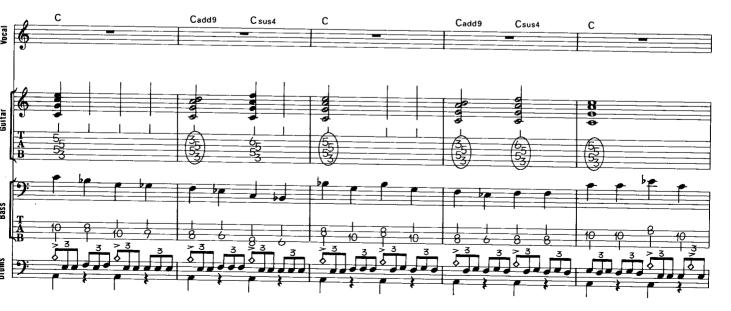














I LOVE YOU

好きさ 好きさ 好きさ Words & Music by Chris White

日本では漣健児の訳詞でもお馴染みのゾンビーズのヒット曲。カヴァ ー・バージョンは日本でももちろんヒットした。この曲で弾かれている ギターはアコースティック・ギターだ。これはスティール弦を張ったフ ォーク・ギター・タイプのモノだ。イントロではこのギターがコードを 使ったリフを弾いているが、これは単純にコードを押さえたままピッキ ングしているのではなく、左手のフィンガリングがかなり動きのあるモ ノとなっているので注意してもらいたい。ピッキングも余計な音が鳴ら ないように、必要な弦だけ弾くようにしよう。キーボードはピアノ、オル ガン、それにエレピの3つが使われている。イントロのピアノは低音部を 使った単音弾きだ。ここはかなり力強く、このフレーズを強調するよう に弾いてもらいたい。ベースやドラムはオーソドックスな8ビートのリ

ズム・パターンになっている。イントロなど特に低音を強調したアレン ジになっているので、ベースも力強くプレイした方が良いだろう。回の バッキング部分のギターはカッティングの要領で、リズムを強調した切 れの良いプレイだ。Cになると少しリズムの感じが変化しており、ここ はコード・ストロークの要領で弾いている。Cではオルガンも弾かれて いる。ここは右手だけではあるが、細かいフレーズを弾いており、Cの 7~8小節目のフレーズなどは正確なリズムで弾くようにしたい。Eは エレピのソロとなっている。ここも、かなり細かいリズムでのプレイと なっている。16分音符や、時には16分の3連符なども多用されているが、 やはりリズムがハシったりしないように十分に注意してプレイしよう。



© Copyright 1967 by MAINSTAY MUSIC CORP., New York, N.Y., U.S.A. Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only

















SUMMER HOLIDAY

サマー・ホリティ

Words & Music by Bruce Welch and Brian Bennett

日本で根強い人気を誇るクリフ・リチャードの全英No.1ソング。この 曲は基本的にバンド演奏によるバッキングとなっているのだが、ストリ ングスやグロッケンシュピールなどが入れられており、かなり豪華なサ ウンドとなっている。さて、そのバンド演奏の部分だが、ギターはエレク トリックとアコースティックの2本が使われており、ベースはウッド・ ベース、それにドラムという編成だ。アコースティック・ギターはスティ ール弦の張られたフォーク・ギターであり、これは8ビートでコード・ ストロークを行っている。ドラムはシンプルな8ビート・パターンを演 奏しているが、スネアはリムを打ってかなり静かなプレイとなっている。 イントロで弾かれているエレクトリック・ギターのフレーズが、印象的 だ。これは2音を使ったフレーズとなっているが、グリッサンドのテク

ニックが用いられており、左手を数個下のフレットから滑り上げるよう にして押さえているモノだ。2つの音を同時に弾いているので、音がバ ラついたりしないように十分に注意してもらいたい。なお、このギター のサウンドはナチュラルでクリアなモノだ。[C]の部分ではギター・ソロ も弾かれている。ここはイントロと同じフレーズの他にチョーキングの テクニックも使ってアドリブ風のソロ・フレーズも弾いている。このチ ョーキングだが、半音だけのチョーキングであり硬めの弦を張っていて も問題なくプレイ出来るだろう。この曲ではコーダの後回の部分から転 調してキーが半音上がっているので注意してもらいたい。なお、ストリ ングスやグロッケンシュピールは生のモノが使われているわけだが、も ちろんシンセなどで代用して演奏すると良いだろう。



© 1963 by ELSTREE MUSIC LTD. Rights for Japan controlled by EMI Music Publishing Japan Ltd















YOU REALLY GOT ME

ユー・リアリー・ガット・ミー Words & Music by Raymond Douglas Davis

キンクスを、いやロック界を代表するナンバーだ。近年ではヴァン・ ヘイレンのカヴァー・バージョンの方が馴染みがある人も多いが、元は このキンクスである。聴けばすぐそれと分かるリフが印象的だ。ギター のサウンドはディストーションこそ掛けられていないが、アタックの強 いハードなサウンドだ。イントロから弾かれているリフは3rdの音を省 略した1、5度コード(いわゆるパワー・コード)にルート上の音を加え たコードによるモノだ。このスタイルは今ではロック・ギターで当たり

前のように弾かれているモノだ。この曲ではギター・ソロも弾かれてい る。ここではチョーキングを多用しているが、弦が太い事もあってか1 音以上のチョーキングは行っていないようだ(もっとも、細い弦でも1音 以上のチョーキングはそう登場しないが)。また、ペンタトニック・スケ ールや複音フレーズなど、今では定番と言えるフレーズが使われている。 ポジション自体は5、7、8fしか使っていないので問題はないが、原曲を 良く聴いてフィーリングをしっかり掴んでおく事は忘れないで欲しい。



© Copyright 1964 by Edward Kassner Music Co. Ltd. Assigned to Zen-On Music Company Ltd. for Japan.











HIPPY HIPPY SHAKE

Words & Music by Robert Lee Romero

様々なアーティストがカヴァーし、知らない人はいないぐらいの定番 曲となった、スウィンギング・ブルー・ジーンズのナンバー。ノリの良 いミディアム・テンポのロックン・ロール・ナンバーだ。エレクトリッ ク・ギター2本にベース、ドラムスというオーソドックスな楽器編成と なっている。2本のギターだが、上段のギター1は単音によるリフを担 当し、下段のギター2はコードによるカッティングを行っている。ギタ ー1が弾いているリフはベースとユニゾンのモノであり、これはロック ン・ロールではオーソドックスなリフと言えるだろう。ギターは少し右 手を弦に当てるようにしてミュート気味にピッキングすると雰囲気が出 るはずだ。なお、2本のギターは共にエフェクターなどを一切使わずに、 アンプに直接プラグインしただけのノーマルでクリアなサウンドでのプ レイとなっている。ドラムはやはりオーソドックスな8ビートのリズム を叩いているのだが、諸面を見てもらえば分かるようにこの曲ではバス

ドラがほとんど使われていないのだ。リズムをキープする意味で入れて 叩いても良いが、全体的に軽い感じのプレイなので、あまりバスドラの 音を聴かせない方が良いだろう。 ©の部分はリズムのキメになっている。 ここはタイミングを合わせてプレイしよう。 ©の 4 小節目ではギター2 がチョーキングを使ったフィル・イン・フレーズを弾いている。 このフ レーズは左手の小指で1弦15フレットを押さえ、人差し指、あるいは中 指で2弦の13フレットをチョーキングして半音上げるようにすると良い だろう。その時、1弦の音も一緒に上げてしまわないように注意しても らいたい。 回はギター・ソロだ。 このソロでは2音を使ったフレーズが 弾かれている。 左手は1つ下のフレットからスライド・アップさせたり、 ポジションの移動が激しいフレーズとなっているので、フィンガリング には気を付けてプレイしてもらいたい。



© 1959 by ARDMORE AND BEECHWOOD LTD. Rights for Japan controlled by EMI Music Publishing Japan Ltd.



.











